

# 『おおきな きが ほしい』

～二年生 こくご 上<本のせかいを 広げよう> 141ページ～

ぶん・さとうさとる

え・むらかみつとむ



佐藤さとるといえば、『コロボックル物語』シリーズで有名です。読んだことがある方も多いと思います。私も小学生の時に『だれも知らない小さな国』を読んで、真剣に小人に会いたいと思ったものです。

この『おおきな きが ほしい』も表紙の絵からわかるように、自分より小さな生命と交流するファンタジーです。そしてこのお話は、本当にこのタイトルそのままなのです。主人公かおるくんの「おおきなきがほしいなあ」という夢を、ひたすら細かく語っているお話です。いえ、お話というほどでもないぐらい、とにかく細部までこだわってかおるくんが空想している夢を語り続ける絵本です。

ハシゴ、ホットケーキ、えんとつ、ベッド、リスの部屋、自分に話しかけてくる鳥。全てが子どもの頃、うっとりとした夢見たことがあるものばかりです。いろんな生き物が自分の家を、警戒せず、出入りしてくれる、夢のようなくおおきな木。大人になった今でも憧れます。

絵の構図などは『100かいだてのいえ』（作・いわいとしお）に影響を与えた所があるでしょう。また、はじめに「ねえ おかあさん」と、かおるくんが話しかけるところから始まるので、もしかしたら大人にむけて書かれたものかもしれません。おかあさんに「子どもの空想を大切にしてくださいね」と。

●読むのにかかる時間 30分

●絵本 32ページ

●偕成社